

☐ ソフト事業のみ
 ☒ ハード事業を含む

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和6年度

市町村名	ときがわ町				
提案事業名	ときがわ町大附地区活性化促進事業				
事業期間	令和5年度 ～ 令和5年度				
成果指標	(成果を検証する指標) ・「いこいの里大附」(町有施設) 年間来場者数				
	(成果検証の具体的な方法) ・「いこいの里大附」のそば打ち体験指導コンテンツを製作し誘客を図る。 ・低山ハイキングや観光スポットの案内人を育成し、観光客の満足向上を図る。				
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	C
	従前値 (R4年11月時点)	8,625人/年間	目標値 (令和6年度以降)	11,000人/年間	実績値 (令和6年度) 8,093人/年間
	(施設建設等の場合の実績)				
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項			町ホームページにより公表する。		

【事業効果の整理・原因分析】

令和5年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① ときがわ町大附地区活性化促進事業	△	実績値では従前値に比べ減少したが、これは令和5年度から定休日を1日増やしたことが大きく影響しているものと思われ、1営業日あたりの来客数は増加している。
②	○ △ ×	作成したハイキングマップ10,000部は、町内の観光施設に配置し、約1年間で全て配布できたことから、ハイカーへの周知に一定の効果があったものと考えられる。
③	○ △ ×	
④	○ △ ×	
⑤	○ △ ×	
⑥	○ △ ×	

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	弓立山山頂にバイオトイレや展望デッキを設置したことで登山者が増加し、それに伴い、いこいの里大附へ足を運ぶハイカーが増加した。 また、山頂にバイオトイレを設置したことで、山頂でのイベント開催が可能となり、地域の活性化に繋ぐことができた。
実施事業について 成果が不十分である点	ハイカーに対しては一定の効果がみられたものの、一般観光客への効果が不十分であると考えられる。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	山頂でのイベントを定期的に行うことで、眺望の素晴らしさをハイカーに広く知ってもらい、より多くのハイカーを呼び込むとともに、いこいの里大附の経営方針等を見直すことにより、自己集客力の向上を図る。